



(発言内容)

より良い大野市にするため、私たちが提案するのが「まち結（むす）car」です。まち結carとは人と人がつながるための車です。これを取り入れることによってより良い大野市になると考えています。

理想のまち

高齢者が住みやすいまち

- ①買い物がしやすい
- ②コミュニティの場がある
- ③相互に助け合いができる

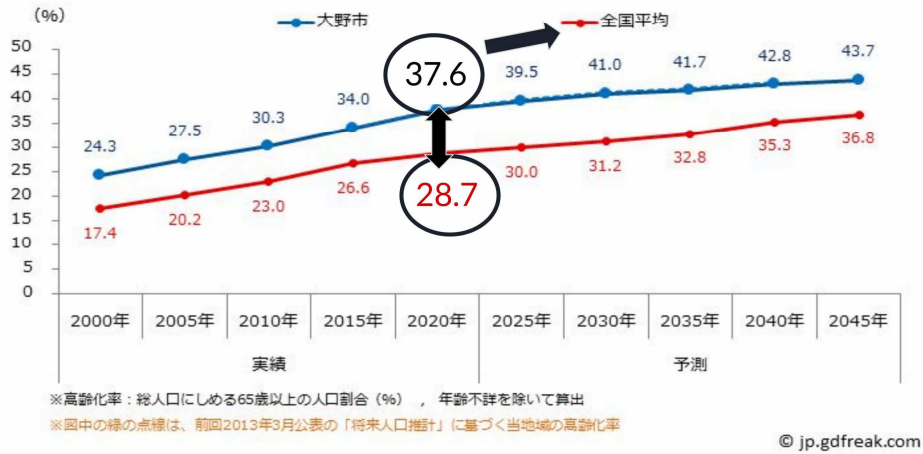


(発言内容)

私たちが考える理想のまちは、高齢者が住みやすいまちです。例えば、①買い物がしやすい、②コミュニティの場がある、③相互に助け合いができるまちが理想的なまちだと考えています。

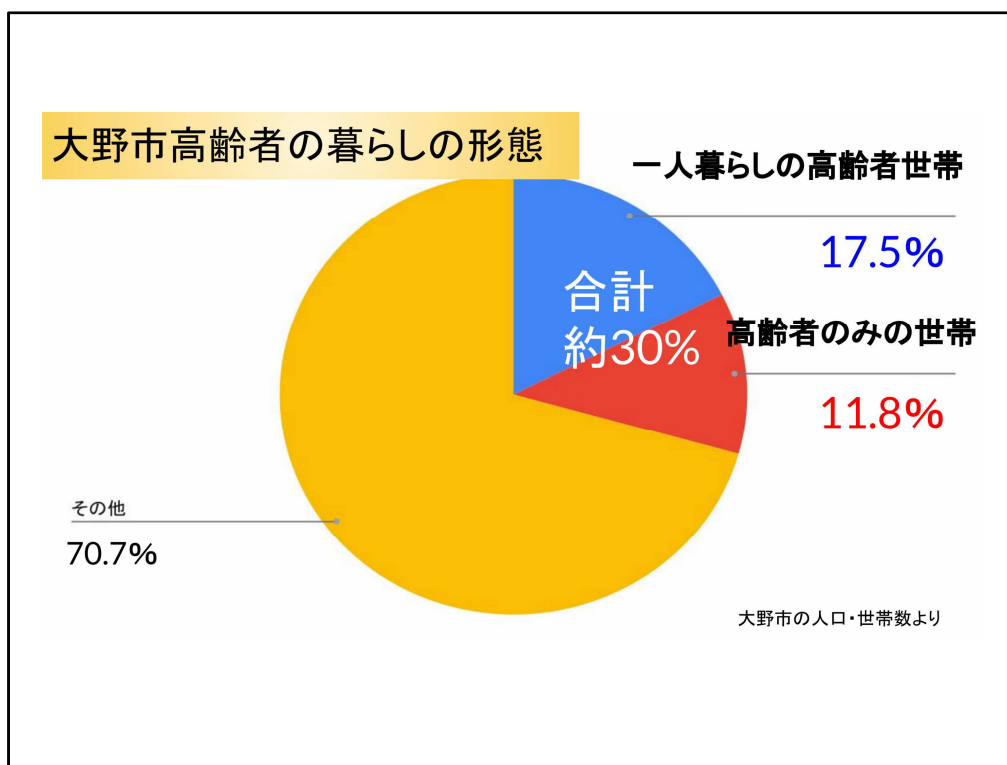
なぜ、高齢者が住みやすいまちが理想のまちだと考えたかという点、次のグラフを見てください。

大野市の高齢化率の推移



(発言内容)

これは大野市の高齢化率の推移を表したグラフです。赤色の線は全国平均で2020年の時点で28.7%となっており、青色の線は大野市で37.6%で全国平均よりも約10%高いことが分かります。



(発言内容)
次は、大野市の高齢者の暮らしの形態を表したグラフです。一人暮らしの高齢者世帯が17.5%、高齢者のみの世帯が11.8%となっており、合わせた約30%が高齢者のみで暮らしていることが分かります。

豊かなまちを目指して...

大野市の高齢者人口が多い



高齢者の生活環境が充実する



他の世代にも良い影響を与える



(発言内容)

このことから、大野市の高齢者人口が多いことが分かります。高齢者の生活環境が充実したら、他の世代にも良い影響を与えるのではないかと考えました。こうしたことから、高齢者の困っていることを調査しようと考えました。

調査方法

- 1 市内の高齢者にインタビュー
- 2 インターネット
- 3 書籍



(発言内容)

調査方法は三つです。一つ目は、市内の高齢者にインタビューを行いました。二つ目は、インターネットで高齢者にとって住みやすい場所を調べました。三つ目は、まちづくりについての書籍を調べました。

① 調査結果(インタビュー)

困っていることは何か？

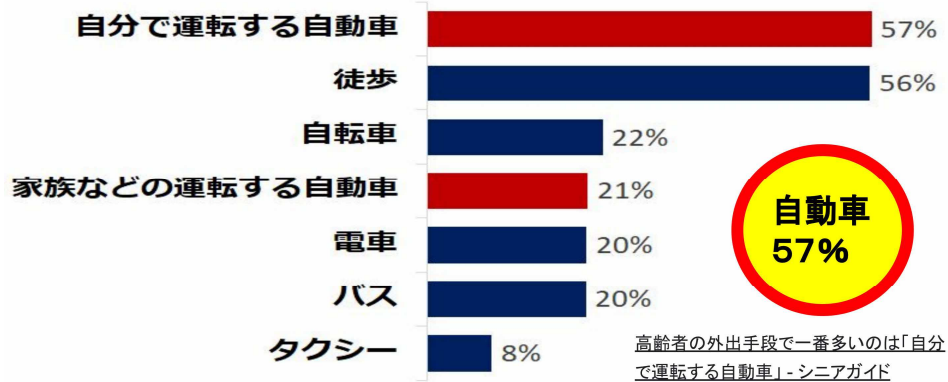
- ・歳をとると、車に乗れなくなる
- ・病院に行きづらい
- ・一人暮らしでの悩みを相談しづらい など

(発言内容)

調査結果①のインタビューです。困っている事は何ですかと聞いたところ、歳をとると車に乗れなくなる、病院に行きづらい、一人暮らしでの悩みを相談しづらいなどの意見が出ました。特に車に乗れなくなると生活が不便になるという意見が多かったです。

高齢者が普段利用する交通手段のグラフ

外出するときに利用する交通手段



(発言内容)

これは、高齢者が普段利用する交通手段のグラフです。高齢になっても車で移動する人が57%と割合が高いです。現在、高齢者の交通事故などが多いことなどから、運転免許の返納が勧められていますが、運転免許を返納した場合、車で移動することが不便だと思う高齢者が多いと考えます。

調査結果①の考察

車がなくても生活できる環境づくりが必要！

(発言内容)

まとめると、車がなくても生活できる環境づくりが必要と考えました。

②調査結果(インターネット)

- ①大野高校2年生の廃校利用
→高齢者の集いの場、コンビニ
- ②エイジフレンドリーシティ
→高齢者にやさしいまちづくり

(発言内容)

二つ目はインターネットから分かったことです。第一に、大野高校2年生の廃校を利用して高齢者の集いの場にしたり、コンビニにしたりする提案です。第二に、エイジフレンドリーシティについて調べ、高齢者にやさしいまちづくりとは何かを考えました。

「高齢になっても住みやすい街に ～ハッピー老後ライフ～」

- ・**廃校**を利用
- ・コンビニのような売店
- ・高齢者の**集いの場**



大きな移動をせずに
人との繋がりを作れる！



(発言内容)

先輩方の提案は、私たちが考える理想のまちづくりにとても参考になることがたくさんありました。なかでも、大野市は高齢者が多く、家が点々としているため、大きな移動をせずに人とのつながりを作ることが大事だと考えました。

エイジフレンドリーシティ

「エイジフレンドリーシティ」
＝「高齢者にやさしい都市」

2007年 WHO(世界保健機関)
世界的な高齢化・都市化に対応するため
提唱した国際的なネットワーク。

[エイジフレンドリーシティの概要 - 秋田市](https://www.city.akita.lg.jp)
<https://www.city.akita.lg.jp>

エイジフレンドリーシティ8つのトピック



(発言内容)

次に、エイジフレンドリーシティという高齢者にやさしい都市を目指すという取り組みです。世界的な高齢化、都市化に対応するために、2007年WHOが提唱したプロジェクトです。日本でもいくつかの都市で行われています。



調査結果②の考察

- ・家から**近い**場所の活用
- ・**高齢者にやさしい**まちを
目指す取り組み

(発言内容)

まとめると、まちの中心ではなく、廃校のような歩いて集まれる、家から近い場所の活用を考えること、高齢者にやさしいまちを目指す取り組みを進めることを考えました。

調査結果③(書籍)

「コミュニティデザインの時代
自分たちで『まち』をつくる」
山崎 亮(中央公論新社)

経済的な面の活性化がまちの豊かさ **×**



人と人の繋がりがまちの豊かさ **○**

(発言内容)

三つ目は、書籍から分かったことです。私たちは、山崎亮さんの「コミュニティデザインの時代 自分たちで『まち』をつくる」という本を読みました。この本では、経済的な面の活性化がまちの豊かさではなく、人と人との繋がりがまちの豊かさだと書かれていました。

調査結果③の考察

経済的な成果を目的としたまちづくり✕



まちに住む人と人との

自然に助けあえる環境づくり○

(発言内容)

これをまとめると、経済的な成果を目的としたまちづくりをするのではなく、まちに住む人と人との自然に助けあえる環境づくりをするべきだと考えました。

 **提案**



店・集いの場に行く⇒**×**
店・集いの場が来る**○**

(発言内容)

これらの結果から私たちが考えたのは、高齢者の方々が店や集いの場に行くのではなく、店や集いの場が高齢者の方々のもとへ来るというものです。行くから来るへの発想の転換を行い、より良い大野市になることを考えました。

むす



まち結car

- ・店が遠くて買い物が不便な人のためのキッチンカー（移動販売車）
- ・廃校を利用して、商品を売ったり集いの場を設けたりする

（発言内容）

そこで、私たちが提案したいのは、まち結carです。まち結carは、店が遠くて買い物が不便な人のためのキッチンカーです。廃校を利用して、商品を売ったり集いの場を設けたりします。

使用例

https://www.maff.go.jp/j/keikaku/syokubunka/k_ryouri/img/fukui_28_1.jpg



①キッチンカー

ex.屋台のようにその場で料理したものを売る

②イベントカー

ex.「でっち羊かんまつり」まち結carを利用して食べ比べ

③小学生とコラボカー

ex.小学校の授業で育てた野菜(さつまいも等)を運んで料理する

(発言内容)

使用例としては、①キッチンカー、屋台のようにその場で料理したものを売ります。②イベントカー、「でっち羊かんまつり」などでまち結carを利用して食べ比べができると良いと考えています。③小学生とコラボカー、小学校の授業で育てた野菜を運んで料理できると良いと考えています。

成功例①

「まちなかキッチンカー」

(大阪府吹田市)



<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000078.000031879.html>

(発言内容)

まち結carを提案するにあたって近い企画のものを調べました。大阪府吹田市では、「まちなかキッチンカー」と呼ばれる取り組みを行っていることが分かりました。「まちなかキッチンカー」はとても好評で地域の方々が結び付きやすい環境を作っていることが分かりました。

成功例②

「エイジフレンドリーシティ」

(兵庫県宝塚市)



エイジフレンドリーシティ宝塚
Age-friendly city Takarazuka

<https://ja-jp.facebook.com/TakarazukaAgeFriendlyCity/>

(発言内容)

成功例として、次は兵庫県宝塚市のエイジフレンドリーシティが挙げられます。エイジフレンドリーシティでは、このような、思いやりバッジを作ったり、100歳体操であったり、ふれあいサロンを行なったりしており、地域の人と人が近い環境を作っていることが分かりました。

<u>まち結Car</u>	
メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none">・買い物がしやすい・交流の場になる・高齢者が住みやすい	<ul style="list-style-type: none">・車の維持・イベント運営時のスタッフの確保

(発言内容)

まち結carのメリットとデメリットを考えました。メリットは、買い物がしやすいこと、交流の場になること、高齢者が住みやすいことなどです。デメリットは、車の維持、イベント運営時のスタッフの確保です。



理想のまち

高齢者の方々の生活が豊かになる

↓ 幸福の相互作用

高齢者以外の若者や子供達の生活も豊かになる

「まち結car」＝地域の人と人とを繋ぐ

大野が良くなる！！

(発言内容)

私たちにとって理想のまちとは、高齢者の方々の生活が豊かになると、若者や子供達の生活も豊かになると考えています。この幸福の相互作用を生かし、まち結carが地域の人と人とを繋ぐきっかけとなって、大野市がより良くなることを目指します。これで発表を終わります。ありがとうございました。